

時代	近世	遺跡	かわしも だいば 河下台場跡、あみや はま 網屋浜台場跡（出雲市）
----	----	----	---

鎖国から開国へ ～松江藩の築いた台場～

江戸時代の後半から幕末にかけて、外国船が日本周辺に出没するようになると、幕府は各藩に沿岸防備を命じ、各藩は大砲を据える台場を設置しました。

18 世紀末から、ロシア、イギリス、アメリカの艦船が通商を求め、日本の周辺に現れるようになりました。幕府は 1825 年に「異国船打払令^{いこくせんうちはらいれい}」を出し、各藩では台場の築造が盛んに行われるようになりました。結局 1854 年に「日米和親条約」が結ばれ日本は開国しましたが、台場の建設は加速し、明治維新まで造り続けられました。

台場とは大砲を据えるための砲台のことです。海岸から船を攻撃する要塞といえます。

出雲市河下町にある河下台場跡は 1863 年（ペリー来航の 10 年後）に松江藩が築いた台場の跡です。石垣と土塁で築かれた台場で、東西 2 つの台場があります。

台場は土を盛って 2 段の階段状にし、側面を石垣にしています。海側の段が高いのは、敵からの攻撃を防ぐためで、1 段低い陸側の段に大砲が置かれました。

東側の台場は長さが 30m、幅 10m、高さが 2.4m だったと考えられています。西側の台場は長さが 63m あったと考えられています。



図 1 河下台場跡（出雲市河下町）

松江藩は 1799 年から幕末までに、30 か所の台場を築いたといわれています。台場は、日本海沿岸の見晴らしの良い場所や、敵の侵入の恐れがある河口付近に築かれました。

松江藩は中国方面から来る船を主に警戒していたので、西側に多く台場が設置されたと思われます。

口田儀台場跡は、現在手引ヶ浦台場公園として復元・整備されています。現存する資料が乏しく、正確な様子は分かりませんが、他の台場や大砲の資料を参考に復元されました。

海岸沿いの見晴らしの良い高台にあり、当時の姿を彷彿とさせています。

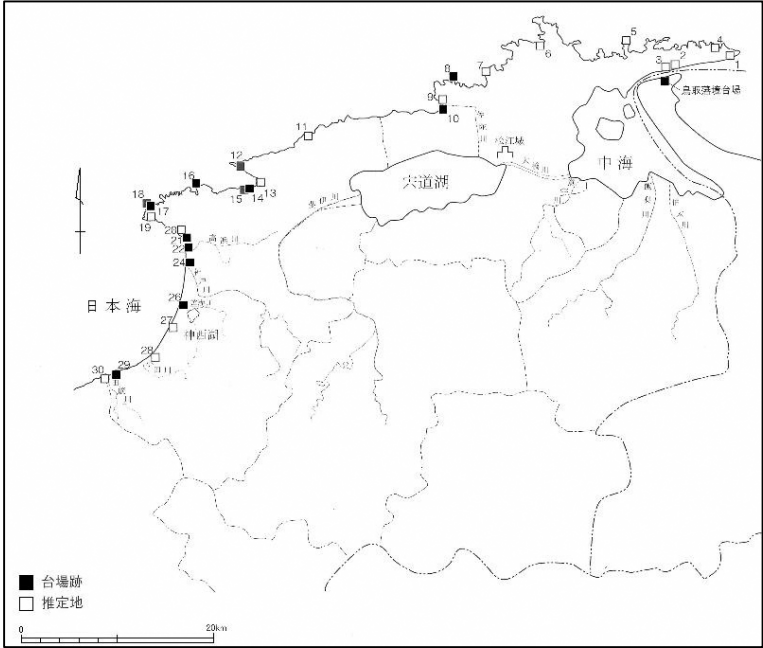


図 2 松江藩がつくった台場の場所

出典：解説・・・(図 1)鳥根県提供 (図 2)『網屋浜台場跡 河下台場跡』 2010 出雲市教育委員会

ワーク・・・(網屋浜台場跡画像)鳥根県提供

～鎖国から開国へ～

年 組 名前

18 世紀末から、外国の船が日本の周りに現れるようになりました。幕府は、各地の藩に命じて外国の船を追いつかうための台場を築かせました。

challenge

右の写真は、江戸時代に築かれた出雲市にある「河下台場跡」です。

この「台場」は、沿岸防衛のために築かれた石垣の台地です。台場の上には大砲が置かれていました。

下の地図は、台場の位置を示しています。地図を見て気がついたことを書きましょう。



河下台場跡（出雲市河下町）



コラム

あみやはまだいばあと ～網屋浜台場跡～

十六島湾をはさんで、河下台場跡の対岸にある網屋浜台場は、松江藩が 1799 年に造ったものだといわれています。

黒船が来る 50 年以上も前に造られた、とても古い台場です。

